

高松市MICE振興戦略（仮称）素案の概要について

高松市MICE振興戦略（仮称）の構成

第1章 「高松市MICE振興戦略(仮称)」
策定の意義

- 1 MICE(マイス)とは
- 2 本市におけるMICEの意義
- 3 MICEの市場動向
- 4 本市のMICEの現状と課題

第2章 基本戦略

- 1 本市の目標とするMICE
- 2 本市のMICE目標指標
 - ・コンベンション数：306件(H35)
 - ・国際会議件数：10件(H35)

第3章 「高松市MICE振興戦略(仮称)」の重点施策

- 1 受入環境の整備
- 2 誘致強化
- 3 MICE振興のための産官学連携
- 4 MICEの創出

第4章 戦略スケジュール

【計画期間】 H29年度～H35年度

Meeting
企業等のミーティング等。
例：海外投資家向け金融セミナー
グループ企業の役員会議 等

Incentive(Travel)
企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する旅行のこと。企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。
例：営業成績の優秀者に対し、本社役員によるレセプション、表彰式等を行う。

Convention
国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等。
例：九州・沖縄サミット、世界水フォーラム、国際サンゴ礁シンポジウム、国際解剖学学会、アジア心身医学会 等

Exhibition / Event
文化・スポーツイベント、展示会・見本市。
例：東京国際映画祭、世界陸上競技選手権大会、アジアバスケットボールリーグ、東京モーターショー、国際宝飾展 等

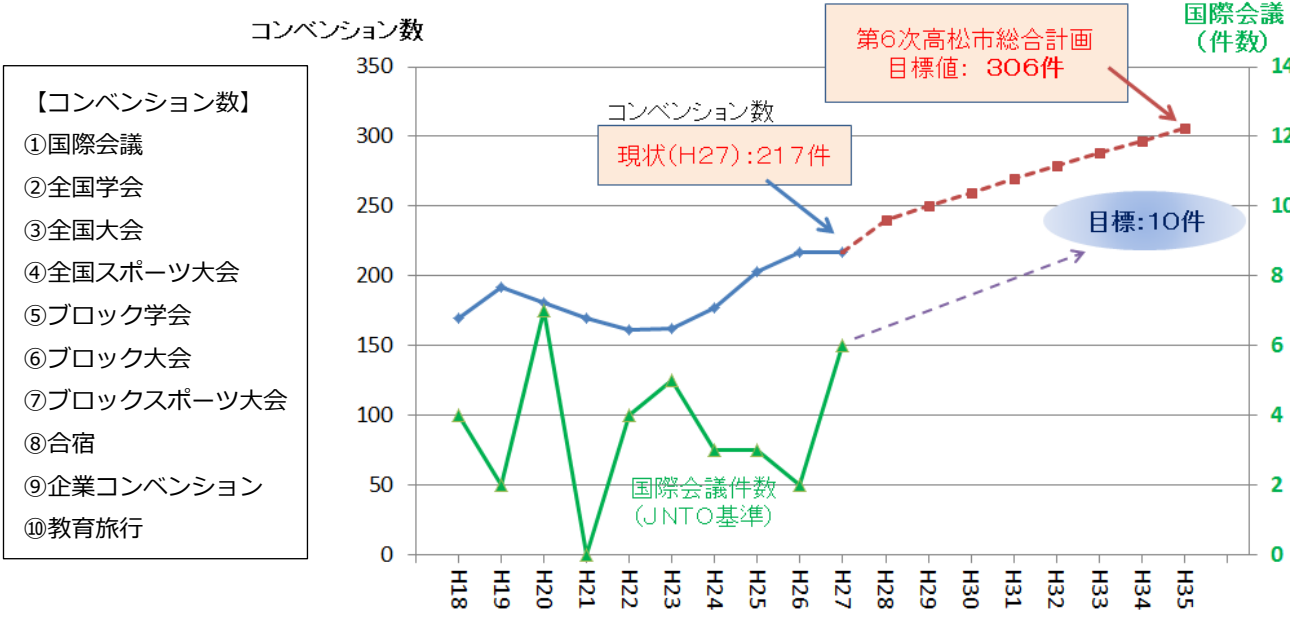
出典：観光庁HPより

おいで **MICE** 瀬戸の都 高松

本市のMICEの現状

第6次高松市総合計画／たかまつ創生総合戦略
MICE(マイス)の誘致促進
(公財)高松観光コンベンション・ビューローとの連携を強化するとともに、文化・芸術・スポーツやアフターコンベンションに関する情報を発信し、大規模コンベンション誘致に取り組めます。

香川県の動き
○「香川県MICE誘致推進方策」
【平成28年3月策定】
○香川県MICE誘致推進協議会
【平成28年11月25日設立】



基本戦略

基本戦略

○既存のMICE誘致を強化するとともに、地域特性を活かしたMICEの創出を目指す。

○県のMICE事業と連携
「香川県MICE誘致推進方策」、香川県MICE誘致推進協議会

目標とするMICE

○ターゲット：国際会議・学会等のコンベンション

○分野：①高松ならではのMICEコンテンツを活用
②香川大学等の研究分野と連携

○規模：500人～2,000人規模に重点
※新県立体育館の誘致により、将来的には、5,000人規模のMICEもターゲットに見据える

○高松らしいMICEの創出
①開催効果を最大化
②ウォーターフロントのMICE施設の集積を活用、都市機能の連携
⇒「高松Tゾーン」を重視
③**本市のシンボル「屋島」の活用**

計画期間

平成29年度～平成35年度
※「第6次高松市総合計画」の終期まで



↑
素案 p.19
本市のシンボル「屋島」の活用のイメージ図

← 素案 p.10
高松Tゾーンの図

重点施策

課題

○ポテンシャルの活用
・施設間の連携強化
・高松ならではの資源の活用
(瀬戸内海の多島美、屋島、玉藻公園、
商店街、高松盆栽など)

○プロモーション強化
・MICE向け情報発信の強化
・高松ならではのMICEブランドの確立

○組織的対応
・誘致体制の強化
・県、施設関係者、大学、地域等との
連携

○産業活性化
・観光の延長ではないMICEの取組
・「ビジネス・イノベーションの機会」
とする取組

重点施策

- 1 受入環境の整備
【主な取組例】
 - 既存MICE施設連携・インフラの整備
 - ワンストップ窓口の設置
 - アフターコンベンション・ユニークベニューの開発
 - 本市のシンボル「屋島」の活用
- 2 誘致強化
【主な取組例】
 - 誘致推進体制の強化(効果的な連携)
 - 高松観光コンベンション・ビューローの体制強化
 - マーケティングの強化(情報収集)
 - 誘致ツールの整備
 - 開催支援補助金制度の見直し
- 3 MICE振興のための産官学連携
【主な取組例】
 - MICE誘致推進協議会との連携
 - 大学とMICE誘致協力に関する連携の検討
- 4 MICEの創出
【主な取組例】
 - 将来のMICEを主催できる人材の発掘
 - 関連事業や周辺イベントの実施
 - 機運の醸成